

和光市 「まち・ひと・しごと地方創生」人口ビジョン・総合戦略概要版

【国の状況】

- 急速な少子高齢化の進展、特に地方の人口減少、東京圏への人口の過度の集中が課題。
- それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたり活力ある日本社会を維持していく必要。
- 国民一人ひとりが夢や希望をもち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進を図る。
- 今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と今後5年間の目標や施策の方向性等をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、総合的に取り組む。

【国の総合戦略が定める政策分野】

- 地方における安定した雇用を創出する(地方での若者雇用の確保のため、地域特性を活かした産業振興)
- 地方への新しい人の流れをつくる(地方への移住の受け皿に関する総合的な環境整備)
- 若い世代の結婚・出産・子育てへの希望を叶える(若い世代の経済的安定と、妊娠出産子育てへの切れ目のない支援)
- 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
(小さな拠点づくりやコンパクトシティの推進、人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化、地域のサービス提供機能の維持)

国の動向

【和光市の目指す方向性】

第四次和光市総合振興計画に掲げる将来都市像「みんなでつくる 快適環境都市 わこう」
快適環境No.1の都市として、子どもを育てやすく、様々な世代が安心して暮らせる地域づくりをめざす
 (将来の人口減少・高齢化を想定し、出生率の向上やファミリー世代の転出抑制を図る取り組みの検討等)

市の動向

【和光市の人口の推移】

- 平成22年までの人口増加率は近隣市と比較して最も高いが近年においては増加率は収縮傾向にある。
- 白子地区、下新倉地区、丸山台地区では人口が増加しているが、西大和団地地区、諏訪原団地地区、広沢地区で減少傾向。諏訪地区と広沢地区を除く9地区では年々65歳以上人口が増加。
- 社入研の推計によれば、2030年をピークに人口減少に転じ、2060年には2010年と比較して5.1%減少。
- 年齢階層別の推移では、2060年に向けて主に生産年齢人口が減少し、65歳以上人口が約35%に達する。
- 和光市は自然増の状態が続いており、社会増減(転出入)が市の人口に影響を与えている。幼児・児童とその親世代で特に転出超過。中でも0～4歳、30～39歳は埼玉県内の他市町村に転出。

【和光市の産業】

- 市内総生産額は継続して増加。第3次産業が産業の9割を占める構造上、特に第3次産業の寄与度が高い。
- 産業の就業人口とその構成比は、埼玉県よりも東京都の構造に類似している。
- 事業所数では卸売・小売が多いが近年その販売額等は減少傾向。2060年に向けて更に減少の予測。
- 第1次産業では農家数や経営耕地面積が減少。認定農業者数は微増傾向。

【人口動態が和光市に与える影響】

- <財政>
- 少子高齢化の進展に伴う、市税収入の減少。扶助費の増加。
 - 既存の公共施設の機能を適正に保つために必要な修繕等に投じる財源が不足する事態に陥る可能性。
- <産業>
- 生産年齢人口の減少による就業者数の減少。
 - 消費人口の減少による和光市内消費額の減少。
- <地域社会>
- 高齢者層の増加による、特に高齢者比率が高い地区における、コミュニティ活力の低下。
 - 人口の偏在による、既存の公共建築物を介した行政サービスへの需給バランスの不均衡の拡大。

和光市における総合戦略 基本目標及び基本的方向性(案)

基本目標1:いきいきと働く、にぎわいのあるまちづくり(仮)

<目標とする状態像>

- 日常生活に必要なものは、市内で手に入れることができる
- 希望すれば、市内で働く場所・機会を見つけることができる

<基本的方向性>

1-1 市内の産業を応援し、にぎわいを創り出す

具体的な施策・事業

1-2 市内において、新たな働き方・場所を創り出す

具体的な施策・事業

基本目標2:新たな魅力が見つかる、ひとが集いなくなるまちづくり(仮)

<目標とする状態像>

- 休日は市内で過ごしたい、市外の人にも訪れてほしいと多くの市民が感じている
- 子どもが生まれても市内で希望の住居を見つけることができる
- 和光ブランドが好きな人たちが、市外の人にも自信をもって勤めている

<基本的方向性>

2-1 休日でも市内で過ごしたいと思える生活空間を創り出す

具体的な施策・事業

2-2 ファミリー世代も住みやすい住宅環境を創り出す

具体的な施策・事業

2-3 市民が誇りに思い、語れる和光のブランドを創り出す

具体的な施策・事業

基本目標3:笑顔で子育てできる、子どもと一緒に過ごせるまちづくり(仮)

<目標とする状態像>

- ファミリー世代の多くが、市内で子どもを産み・育てたいと感じている
- 出産・子育てに関する必要な情報や支援を得ることができ、不安なく過ごせる
- 子どもたちが、確かな学力と運動能力を身につけ豊かな人間性と社会性を育てている

<基本的方向性>

3-1 不安なく、出産・子育てができる環境を創り出す

具体的な施策・事業

3-2 自ら学ぶ機会を創り出す

具体的な施策・事業

基本目標4:安心して楽しく暮らす、手をつなぐまちづくり(仮)

<目標とする状態像>

- さまざまな世代が、ともに、地域での暮らしを楽しんでいる
- 外出することをためらわず、だれもが安心して市内を移動できる

<基本的方向性>

4-1 多世代交流を促進し、地域の楽しい暮らしを創り出す

具体的な施策・事業

4-2 誰もが安心して外出できる市内の移動環境を創り出す

具体的な施策・事業